古絵図に見る四ヶ村用水と谷古田用水（五ヶ村用水）

加藤 幸一

四ヶ村用水

「四ヶ村用水」（しかそんようすい・しかむらようすい）は、江戸時代の古絵図を見ると、瓦曽根村の鎮守である稲荷神社の西側のそばの瓦曽根溜井より取水し、照蓮院の裏、西側を流れて日光街道に入り、その後は日光街道の道路東側に沿って南下し、「**出羽橋**」（現在の**蒲生橋**）で出羽堀に合流し、さらに南下して蒲生村で綾瀬川に流れ注いでいたことがわかる。

日光街道の道路西側沿いには「西堀」（にしぼり）が流れ、道路東側の四ヶ村用水と並行して南下しているが、清蔵院先で日光街道の道路下をくぐって四ヶ村用水に合流していたこともわかった（5 頁記載の蒲生村の中野家文書の慶応 3 年の古絵図、7 頁記載の同文書の神社仏閣の地図参照）。

四ヶ村用水は、かつては、瓦曽根村・西方村・登戸村・蒲生村の四ヶ村の田畑の用水として利用されていた貴重な水路であったのである。

「四ヶ村用水」の読み方については、地元で呼ばれてきた「しかむらようすい」が定着している。しかし「しかむら」を初めて耳で聞くと「しか村」という村の地名としてとらえやすいので、「しかむらようすい」と呼ぶのは不自然である。それに村の数は「いっかそん」、「にかそん」、「さんかそん」、「しかそん」と数えるので、江戸時代は「しかそんようすい」と呼ばれていたと思われる。これが正しい呼び方であろう。

谷古田用水

5 頁記載の慶応 3 年（1867）や 6 頁記載の安永 9 年（1780）の蒲生の中野家の古絵図では、現在の谷古田（やこた）用水は「五ヶ村（ごかそん）用水」と記載されている。谷古田用水は、江戸時代は「五ヶ村用水」と呼ばれていたようである。

谷古田領を潤す用水は、最初は蒲生村に用水の堰を設けて綾瀬川（新綾瀬川）から直接取水していたが、延宝 8 年（1680）に綾瀬川に堰を設けることが禁じられたため元荒川の瓦曽根溜井を新たな水源とした谷古田領五ヶ村用水ができた。綾瀬川に堰を設けることを禁止した延宝 8 年には、今まで通り灌漑ができるようにと五ヶ村用水の開削が既に完成し同時に運用したのであろう。

谷古田用水は、上流部分では葛西用水と並行して流れ、途中から離れて綾瀬川（新綾瀬川）に向けて流れ、綾瀬川の近くに来ると綾瀬川沿いに南下して流れ（現在は綾瀬川から離れて南下して流れている）、古綾瀬川に流れ注ぐ綾瀬川左岸の谷古田領（草加市）を灌漑する用水であった。３頁記載の明治 13 年測量の迅速測図をみると、越谷市の瓦曽根溜井で取水された用水は、現在の越谷（埼玉郡）と草加（足立郡）の市境（郡境）にある古綾瀬川の上を掛樋で流れ、綾瀬川の左岸を綾瀬川と並行して進み、古綾瀬川に流れ注ぐ用水であったことがわかる。9 頁・10 頁記載の越谷市立

図書館保管の資料番号 186 の古絵図には掛樋が詳細に書かれ、また 8 頁記載の越谷市立図書館保管の絵図類の部の資料番号 54「江戸期綾瀬川流路改修絵図（草加地域）」によって、「〆切橋」（藤助酒店南側、越谷と草加の市境あたりにあったと推測）から綾瀬川沿いに綾瀬川と並行に流れていることがわかる。〆切のいわれは綾瀬川からの取水をここで締め切ったという意味と思われ、この〆切橋の先の綾瀬川の地点が谷古田領五ヶ村用水の最初の取水口であったのかもしれない。

五ヶ村とは、谷古田領五ヶ村をさし、槐戸（さいかちど）村（八幡・やはた）、中曽根村（中根町）、谷古宇村（谷古宇橋の東側）、篠葉村（弁天町）、宿篠葉村（古綾瀬川北側）を指す。3 頁のように本来の綾瀬川沿いを南下する流路から現在のように綾瀬川沿いから離れて南下する流路に変わっても、これらの村々にのみこの用水を利用する水利権があり、現在に至っている（※1）。

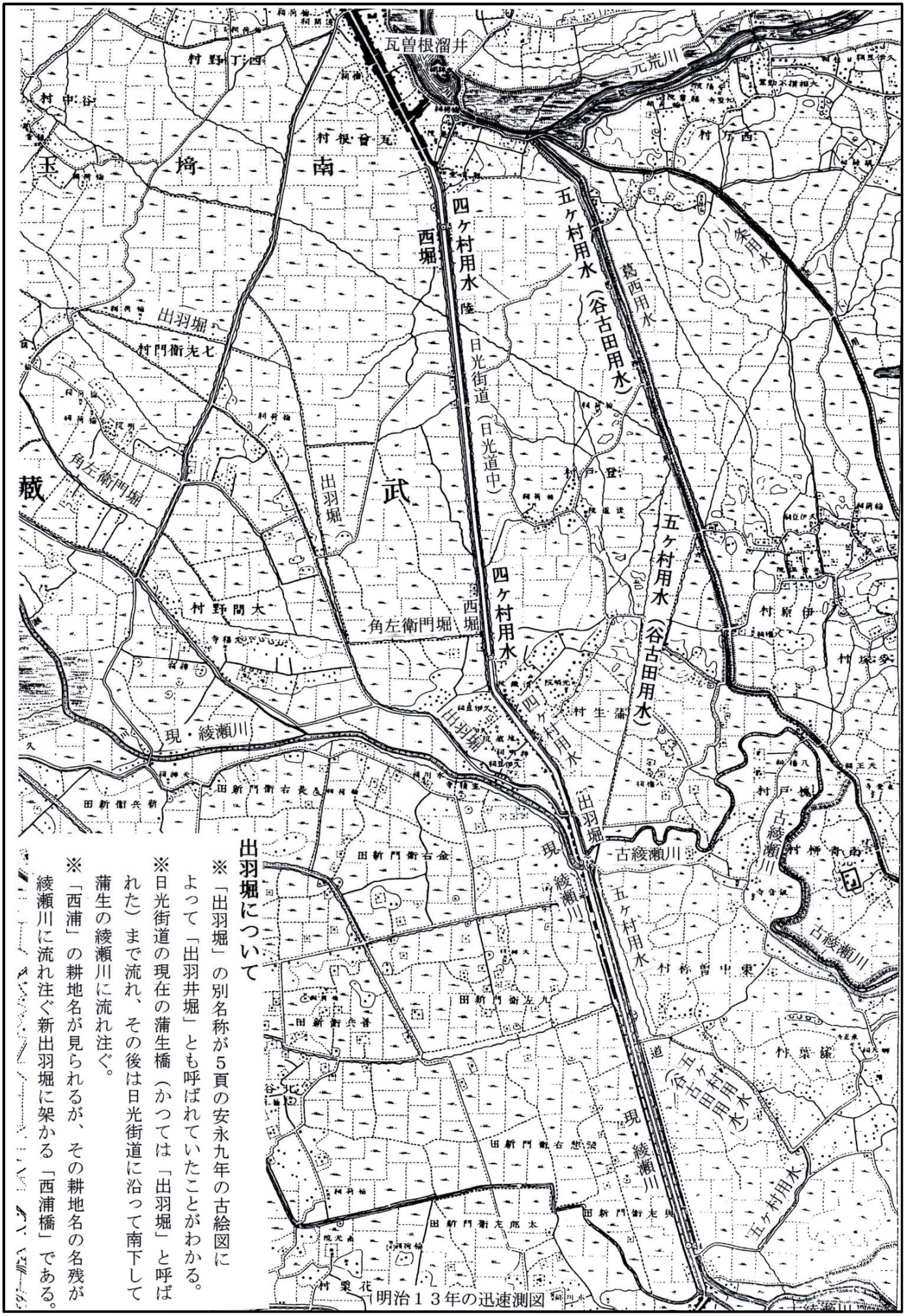
なお地元では谷古田用水を「さんがわ」と呼んだ。三村を流れる用水という意味の俗称であろう。三村とは、西方村・登戸村・蒲生村を指すと思われる（※2）。西方・登戸・蒲生では、谷古田用水には水利権がないので利用できず、代わって四ヶ村用水を利用していたのである。

なお、谷古田領の瓦曽根溜井にある煉瓦造りの元圦は、明治 24 年 4 月 18 日に北足立郡新田村草加町組合（管理者は新田村長）によって建設されたもので、現存する農業用水の煉瓦造り樋門（取水施設）としては日本で最古であるという。越谷市としては全国に誇れる文化財である。

※1. 草加市の HP の「そうか事典」によると、現在の谷古田用水流路を「八幡町（やはたちょう）、中根町を流れる用水。葛西用水系で、葛西用水瓦曽根溜井から引水。旧草加町、新田村（しんでんむら）の谷古田領などの綾瀬川左岸流域をかんがい。上流部では葛西用水と並行して南行し古綾瀬川に流入する。」と記載されている。八幡は本来「やわた」と呼ばれていたと思われる。

※2. 蒲生の地元では「さんが」「さんがわ」と呼ばれてきた。平成 18 年の地元の聞き取り調査では、「さんが」のすぐそばに住む浅見 正史（ただし）氏（浅見米店）はこの用水で遊んでいた子供の頃に「さんがわ」と呼ばれていたのを覚えている。三村を流れる「三川」と書くのではという。本来は「さんがわ」と呼ばれていたのであろう。一方、「さんが」から離れた地域に住む 60 歳代男性は三河（さんが）と書くのではとの考えであった。その後の平成 29 年 2 月 13 日に元越谷市議会議員の植竹 勇（いさむ）氏（大正 14 年生まれ）からの聞き取りによると、「さんが」の由来は伝わってきていないのでわからないが、「さんが」は「三ヶ所（の村々）」という意味だろうとして漢字に置き換えると「三箇」となるのかもしれないという。そして地元（蒲生）には水利権がなく、水利権のある草加（谷古田領）の人が「さんが」の様子を検分にきていたという。

直近の地元では「さんがわ」、離れた地域では短縮して「さんが」と呼ばれ、「さんがわ」の整備にともない「さんが公園」と刻まれた石碑がたつと、「さんが」と呼ばれるようになったのである。



明治１３年の迅速測図

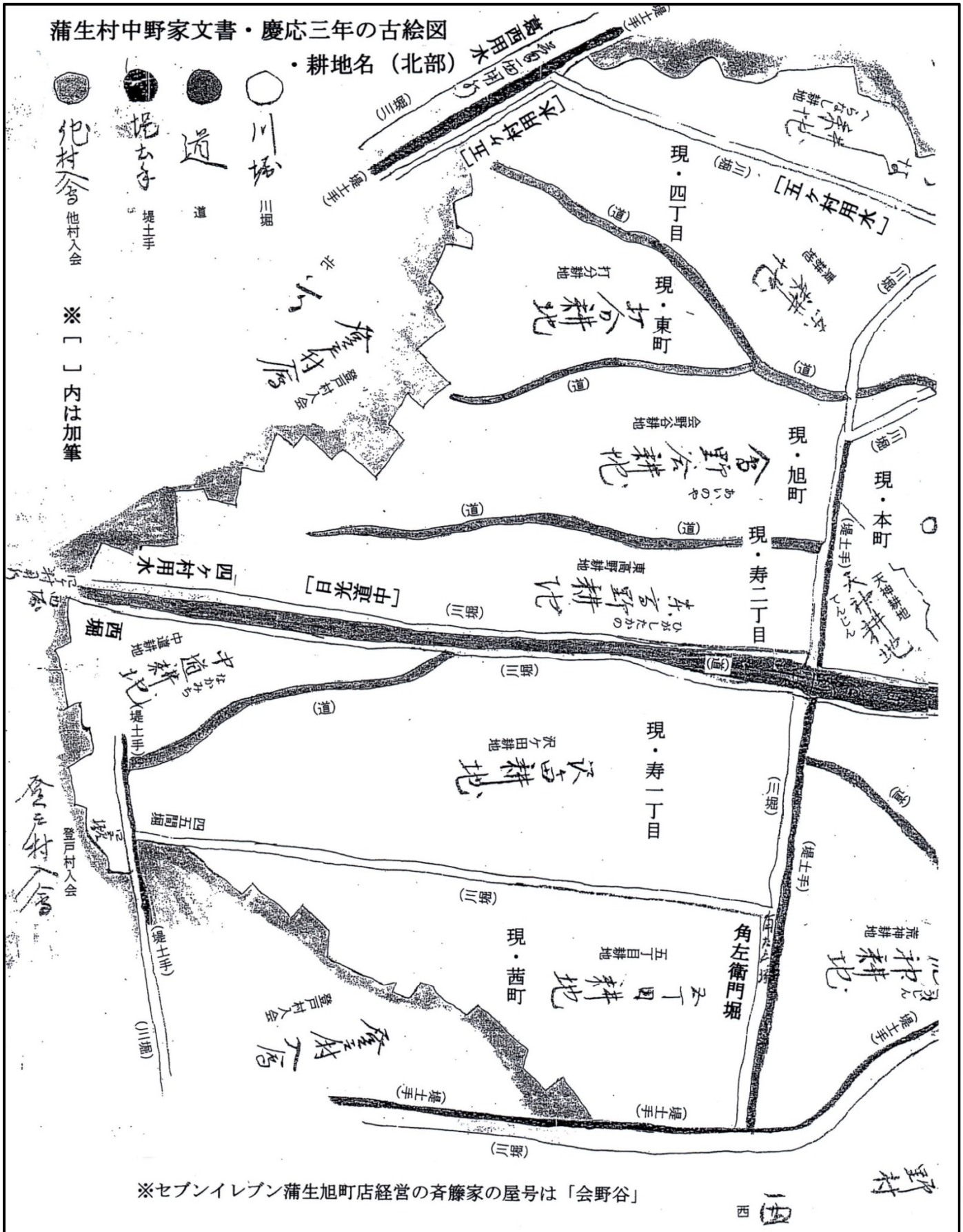
出羽堀について

※「出羽堀」の別名称が5頁の安永九年の古絵図によって「出羽井堀」とも呼ばれていたことがわかる。

※日光街道の現在の蒲生橋（かつては「出羽堀」と呼ばれた）まで流れ、その後は日光街道に沿って南下して蒲生の綾瀬川に流れ注ぐ。

※「西浦」の耕地名が見られるが、その耕地名の名残が綾瀬川に流れ注ぐ新出羽堀に架かる「西浦橋」である。

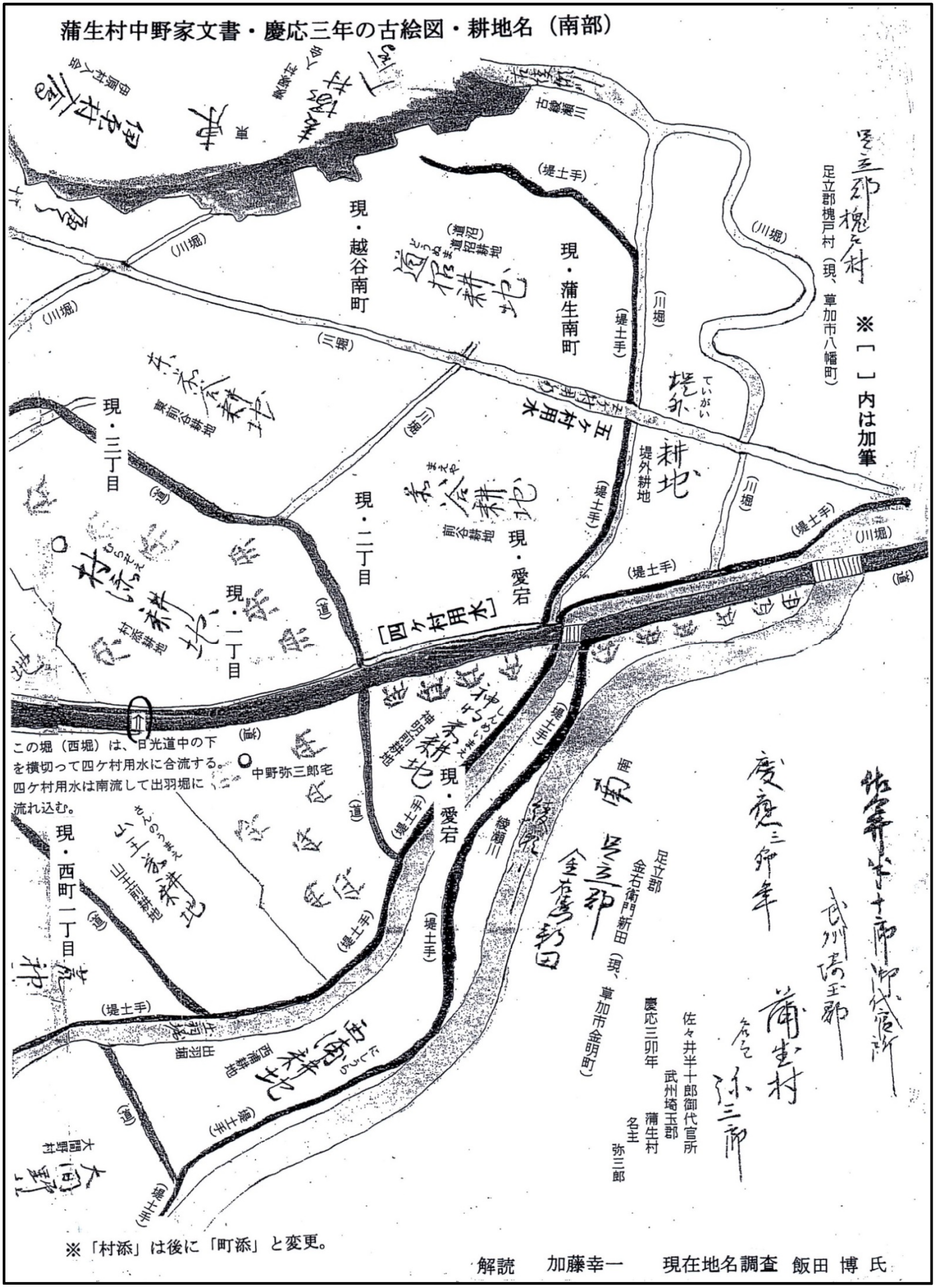
蒲生村中野家文書・慶応三年の古絵図
・耕地名（北部）



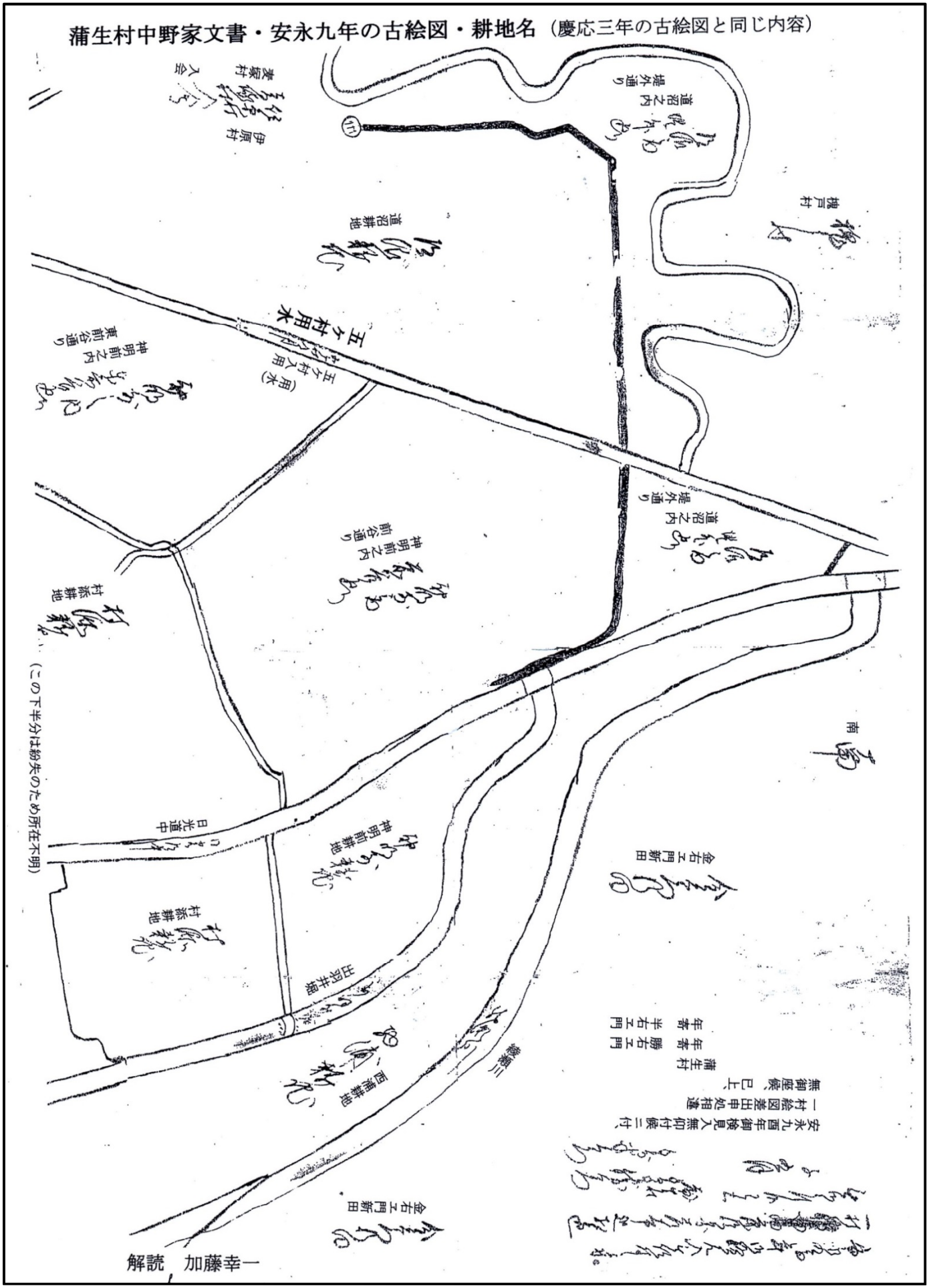
※セブンイレブン蒲生旭町店経営の斉藤家の屋号は「会野谷」

解読　加藤幸一　　現在地名調査　飯田 博 氏

蒲生村中野家文書・慶応三年の古絵図・耕地名（南部）



蒲生村中野家文書・安永九年の古絵図・耕地名（慶応三年の古絵図と同じ内容）

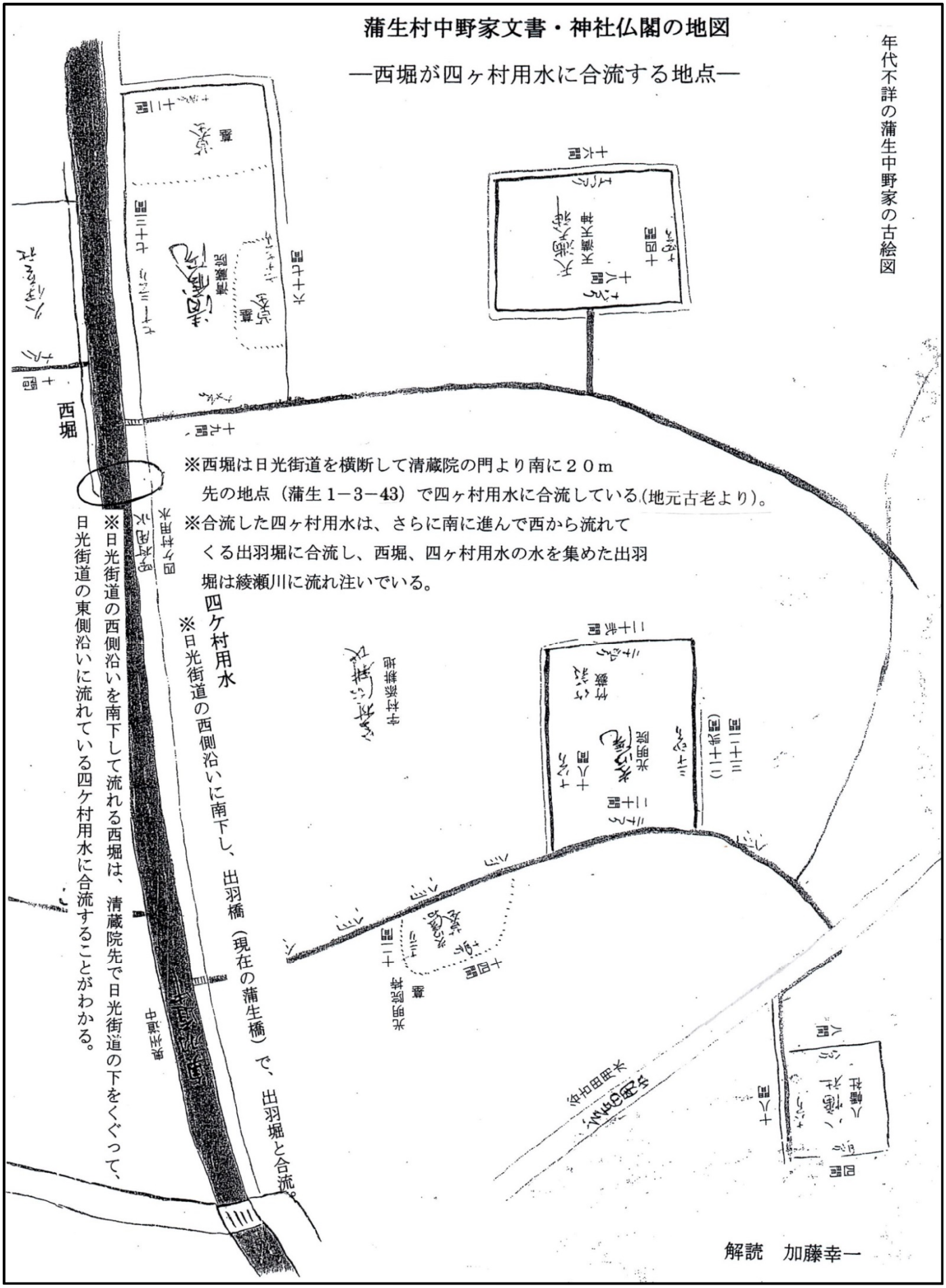


解読　加藤幸一

蒲生村中野家文書・神社仏閣の地図

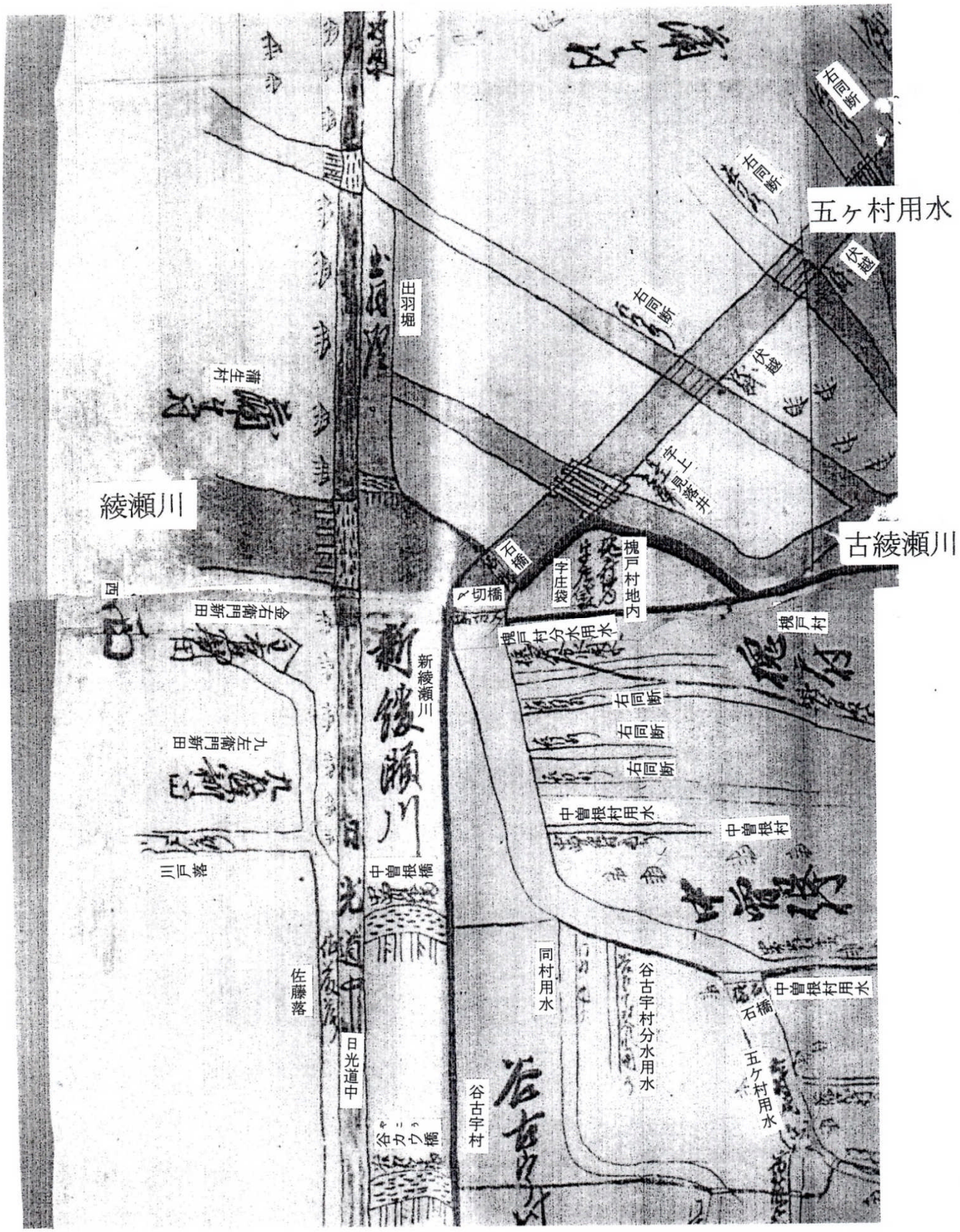
―西堀が四ヶ村用水に合流する地点―

年代不詳の蒲生中野家の古絵図



解読　加藤幸一

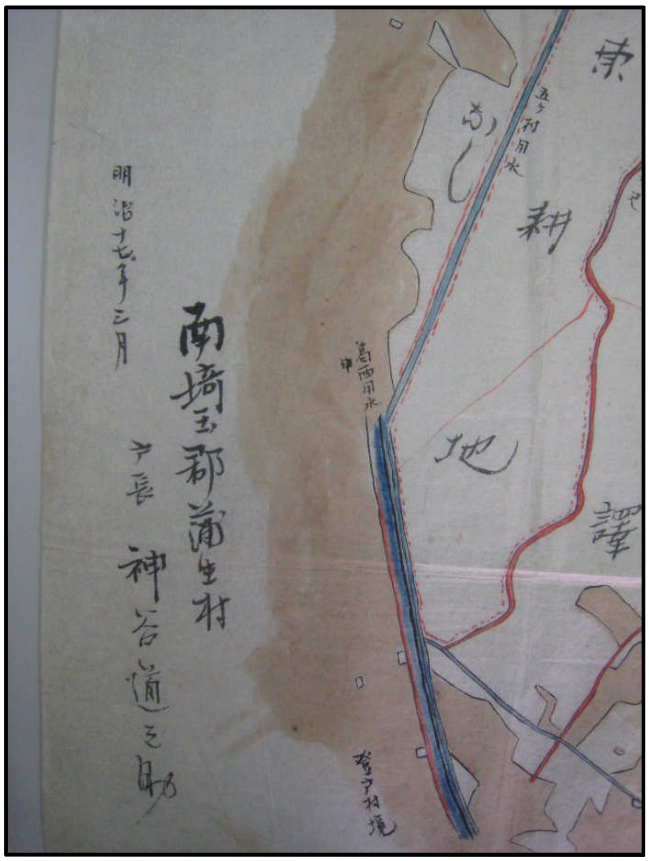
越谷市立図書館所蔵　絵図類の部　資料番号５４　江戸期　綾瀬川流路改修絵図（草加地域）


五ヶ村用水
古綾瀬川
綾瀬川
新綾瀬川
出羽堀
右回断
右回断
右回断

谷古田用水（五ヶ村用水）の古綾瀬川にかかる掛樋・その１

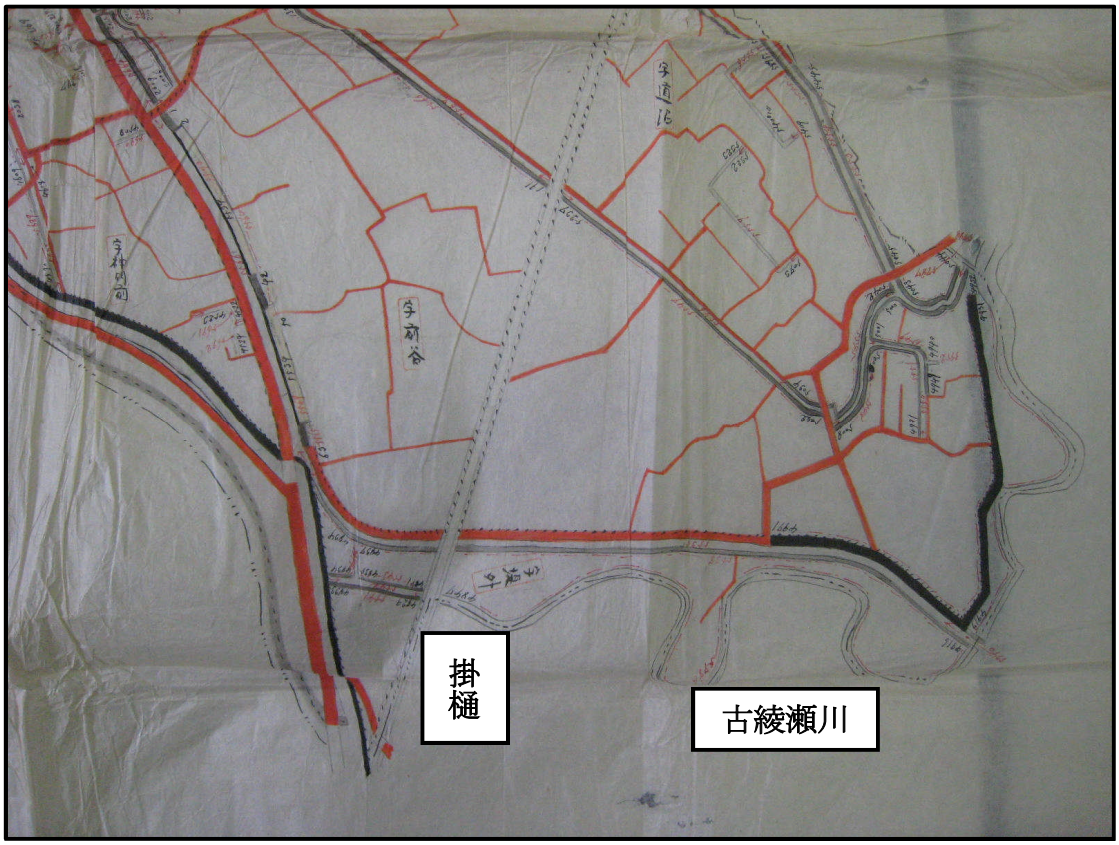
越谷市立図書館所蔵　**資料番号 186**　部分
明治 17 年の絵図により、現在の「谷古田用水」はかつて「五ヶ村用水」と
記載されていたことがわかる。

南埼玉郡蒲生村
戸長　神谷道之助
明治十七年二月



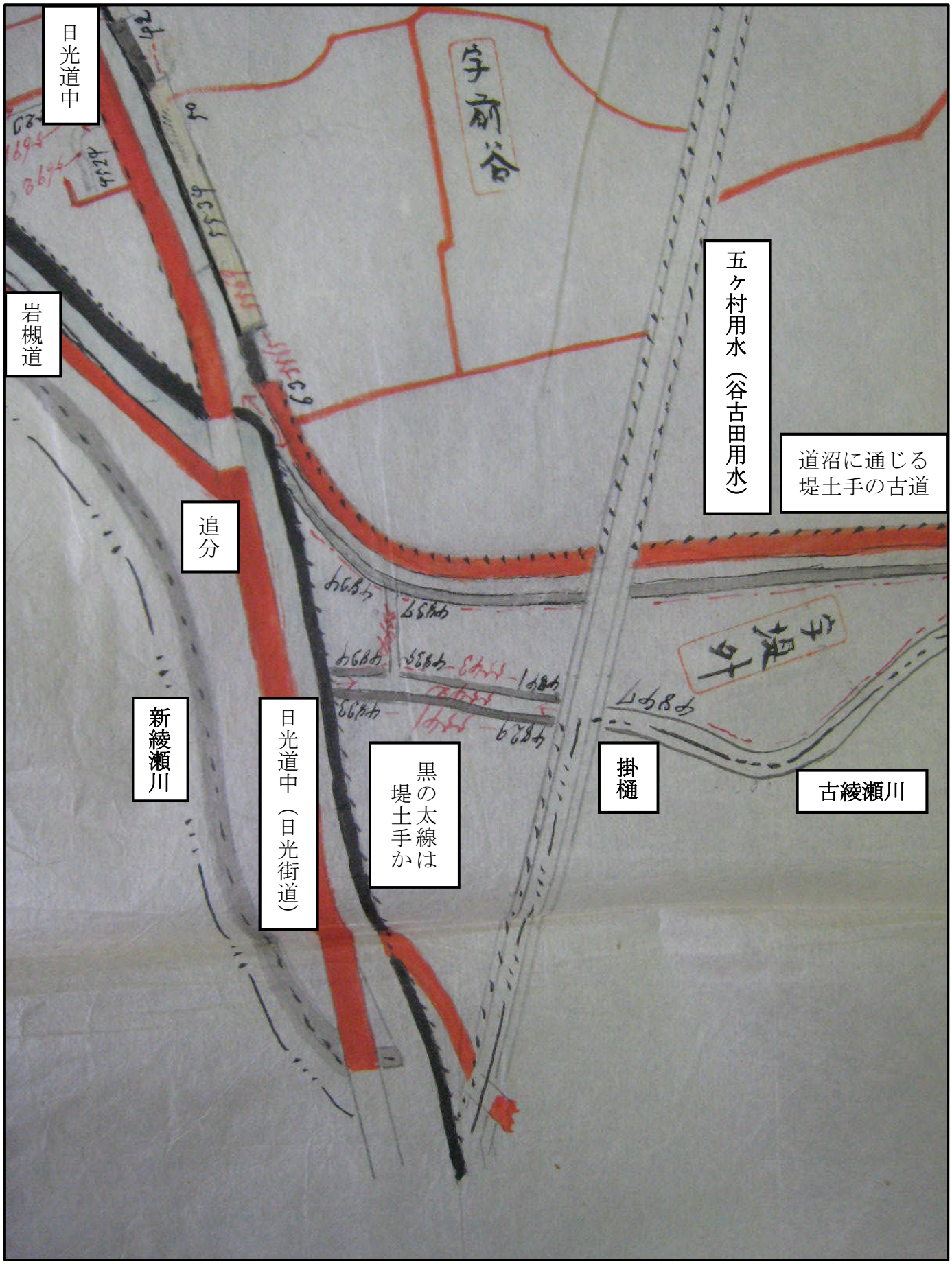
東　耕　地
五ヶ村用水
なし（へらなし耕地）　葛西用水　登戸村境

越谷市立図書館所蔵　**資料番号 186**　部分
「五ヶ村用水（谷古田用水）」はかつて「古綾瀬川」の上を掛樋で流れていたことがわかる。



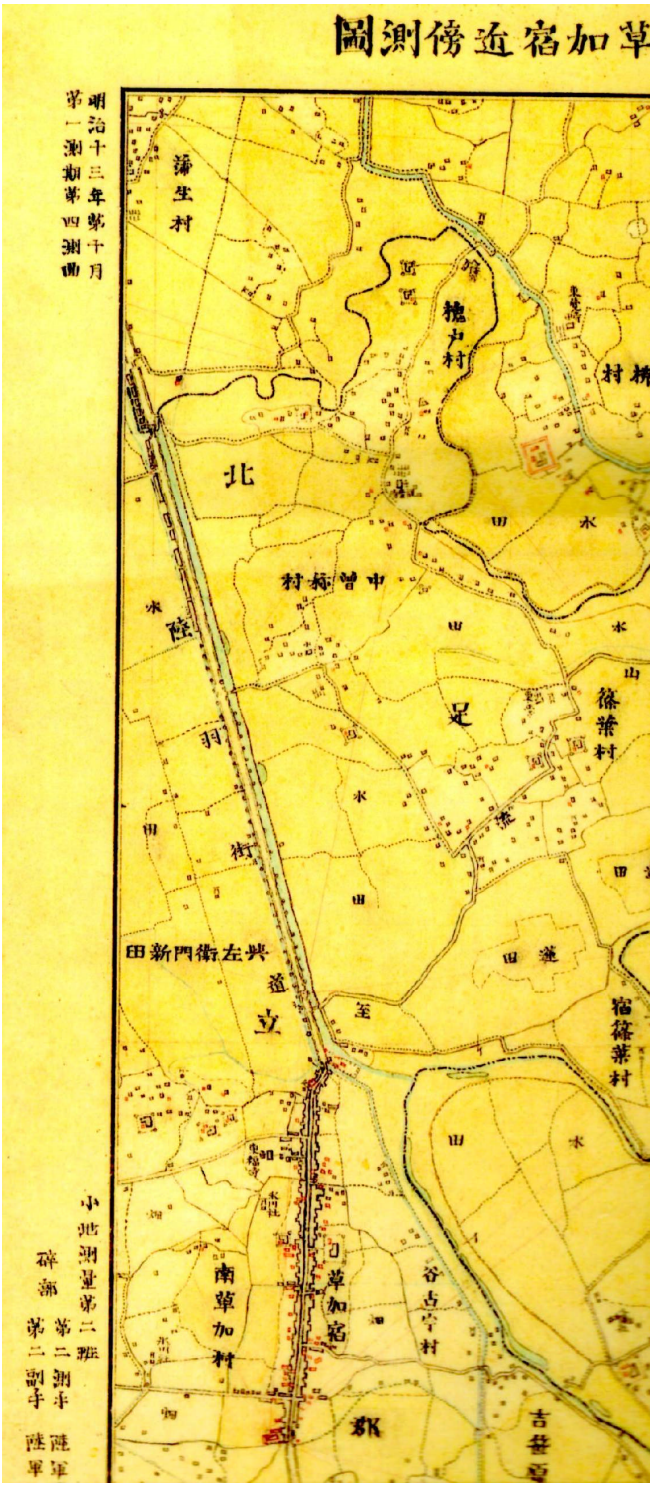
谷古田用水（五ヶ村用水）の古綾瀬川にかかる掛樋・その１

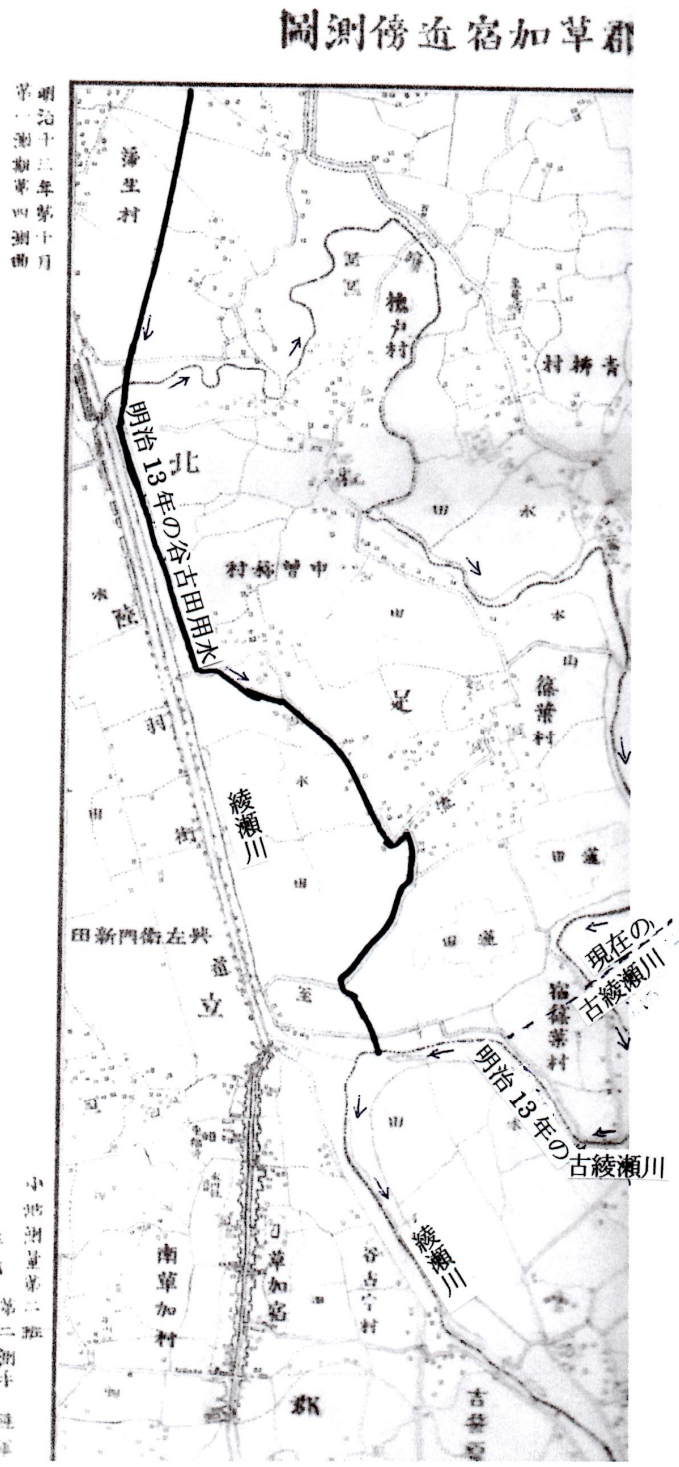
越谷市立図書館所蔵　**資料番号 186**　部分（拡大）
「五ヶ村用水（谷古田用水）」はかつて「古綾瀬川」の上を掛樋で流れていたことがわかる。



草加市内の明治 13 年の谷古田用水路（推定）

今とは流れの筋がだいぶ違っていると思われる。





「四ヶ村用水」と「五ヶ村用水」の古文書の記述例

一長弐百五拾壱間
なかし横壱間四尺　瓦曽根村
西方村
登戸村
蒲生村
用水堀　壱ヶ所
是ハ右四ヶ村用水堀浚修覆之儀ハ、右四ヶ村ゟ御
注進申上御役人様方御見分ヲ請御吟味之上、浚御
普請被仰付候、尤人足勤高右同断

「四ヶ村用水」の記述
『越谷市史三　史料一』126 頁　下段

一長八間半
横四尺
高三尺五寸　谷古田領　槐戸村
篠葉村
中曽根村
宿篠葉村
谷古宇村
用水圦　壱ヶ所
是ハ当村之内溜井ニ伏候右五ヶ村用水圦、御伏替
修覆之儀ハ御吟味之上以御入用を修覆被仰付候、
但し人足勤高之義ハ高何程ニ而相勤候哉他領故不
奉存候、尤右圦支配之義ハ瓦曽根村ニ而跡〻ゟ致
来候、

「五ヶ村用水」の記述
『越谷市史三　史料一』128 頁　下段

※「四ヶ村用水」の「四ヶ村」とは、瓦曽根村（かわらそね）、西方村（にしかた）、登戸村（のぼりと）、蒲生村を指す。
※「五ヶ村用水」の「五ヶ村」とは、谷古田領五ヶ村を指し、槐戸村（さいかちど）（八幡町（やはた））、中曽根村（なかそね）（中根町）、谷古宇村（やこう）（谷古宇橋の東側）、篠葉村（しのは）（弁天町）、宿篠葉村（しゅく）（古綾瀬川北側）を指す。